

平成 26 年度地域医療・介護連携推進事業 一関コミュニティFM (FM あすも) 番組
放送日 : 平成 26 年 12 月 24 日 (水) 17 : 20 ~ 17 : 35 (塩竈一常 GET KING!!)
(再放送 : 12 月 28 日 (日) 9 : 10 ~ 9 : 25 REFRESH!!)

「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」

第 12 回放送 県南広域振興局保健福祉環境部 後藤啓之 長寿社会課長

(聞き手 : FM あすも 塩竈一常)

塩竈 「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」さあ私たちが住んでいるこの一関市では、高齢化が進む中、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、医療から介護への切れ目ないサービスを目指しています。このコーナーでは、医療機関や介護施設の役割、またその利用方法などを医療・介護・福祉の関係者と私たち市民が、ともに理解、協力することを目的に一関市健康づくり課の提供でお送りします。

塩竈 さあ年内最後の「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」のコーナーになりました。今日はですね、県南広域振興局の方をお招きしまして地域包括ケアシステムこれを構築するために、国ですとか県ですとかいろいろこう取り組んでいることがあるんですね。更に私たちがそこにどう関わっていったら良いのかっていう、こういったところのお話を伺っていきます。

塩竈 県南広域振興局保健福祉環境部の後藤啓之長寿社会課長にお越しいただきました。後藤さん、今日はよろしくお願します。

後藤 よろしくお願いたします。

塩竈 さて今日はですね、「地域包括ケアシステムその構築に向けて」というテーマで皆さんとお話を伺っていきたいと思います。まずは、その前段です、この地域包括ケアシステムを説明していくにあたって、まずひとつ法律ができたということなんですけれども、ここから後藤さん教えてください。

後藤 分かりました。本年 6 月にですね、国会、この時期に一斉にいろいろな法案が成立する時期なんです、そのひとつとして「医療介護総合確保推進法」略称なんです、こういった法律が公布されました。その背景にございますのが、戦後間もない昭和 22 年～24 年の 3 年にわたってですね、一斉にお子様がたくさん生まれました。いわゆる「団塊の世代」と呼ばれる方々なんです、この方々が 10 年後の 2025 年 (平成 37 年)には皆さん 75 歳以上となりますので、高齢者の介護と医療の分野に大きな影響を与えるということが心配されているということがございます。

塩竈 なるほど。日本の中では、将来を見据えてもちろんいろいろな研究というのはあったんだと思うんですけども、私たちの想像をはるかに越えてですね、こういったこの国も経験したことがないような、超高齢化と言いますか、そういう社会が向かっているわけですよね。

後藤 そうですね。人類の進歩にとっては非常に良いことなんです、医学医術が進歩しますと、過去昔であれば、そう遠くはない過去なんですけれども、病気になれば長くは生きられないということがあったと思うんですが、それが今は比較的完全に治らないとしてもですね、何とか自立しながら生活できるということが多くなりまして、です、ので病院でそれ以上治療ができない、一度退院はしますが、一度在宅なり施設に入られて生活を続けていく、まあ高齢者ですからまた病気になって病院に戻ることがあるかも知れませんが、そういった繰り返しを重ねながら長寿を全うできるという世の中になって

きているわけですね。

塩竈 なるほど。そこをより文化的のももちろんですし、いろいろ健やかに過ごしていただく、そういった方法というのをいろいろと皆さんたちで考えていかなきゃいけない時代ですよ。

後藤 そうですね。

塩竈 高齢化のこの現状というのを、後藤さんに教えていただきたいと思うんですけども、岩手県全体、それから私たちが住んでいるこの両磐の地域ですね、この辺りの現状ってどのようになっているんでしょうか。

後藤 よく言われます高齢化率って言いますのは、65歳以上の高齢者の人口が総人口に占める割合のことを言うわけなんですけれども、岩手県全体では平成26年、今年の10月1日現在ですと「29.6%」、これは一年前に比べますと0.9ポイント増えた数字でございます。その中でこのアスモさんがあります一関市、それに平泉町を加えた地域について見ますと、「32.6%」ですから全県に比べまして、ちょうど3ポイント上回っている形になりますね。これは、その数値的だけ言うと分かりづらいものですから、世界的な基準に当てはめると、高齢化率が7%を超えると「高齢化社会」、14%を超えると「高齢社会」、21%を超えた社会は「超高齢化社会」と呼ばれます。従いまして、この地域については、その21%を既に10ポイント以上も上回っているわけですから、「超」を何回重ねてもいい位の高齢社会だということが言えます。

塩竈 そうなんですね。こういった世界的な基準というところから照らし合わせて見ると、まさにそういった対策というのを本当に急ピッチで進めていかなきゃいけないというのが分かりますよね。

後藤 そうですね。

塩竈 こういった中で公布されたのが、6月にできた略称ですが「医療介護総合確保推進法」、

こういったところに基づきまして、今その地域包括ケアシステムというのが、とても大事だっというふうに言われているようでして、この言葉自体は何かで皆さん耳にしたことあるかと思うんですけども、後藤さん、この地域包括ケアシステム、今日はですね、これを詳しく教えていただきたいと思います。

後藤 分かりました。この一関市、平泉町さん、地元についてはですね、広域事務組合という両方の市と町から職員を出して1つの組織があるんですけども、そこで3年ごとに介護保険事業計画というものを作っております。それで今動いておりますのが、平成24、25、26年度のこの3年のものなんですけど、その中について既に地域包括ケアという言葉自体は出てきますが、その具体的なものは、まだ緒に就いたばかりで、それは県のどの地域についてもそうとなっております。そこに先程の新しい法律ができたものですから、これから来年度以降の3年について具体的に話を進めていくことになっております。そこで地域包括ケアシステムというものを、この機会に是非リスナーの皆さんにはしっかり覚えておいていただきたいんですけども、こういうことになります。

後藤 皆さんが高齢に必ずなりますけれども、重度な要介護状態になった場合に、この住み慣れた一関市、平泉町の地域でですね、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるように、医療・介護、さらには予防、それと生活の基盤になる住まいですね、そこを含んで、さらには見守りや配食といった生活サービスが切れ目なくひとつの地域の中で自分の生活の場でですね、全部いろいろなサービスが受けられるような地域での体制づくり、言葉を変えれば「まちづくり」と言っても良いかと思います。

塩竈 1つの分野だけではなくて、まち全体としていろいろなものに取り組んでいく、それを包括していくというそのシステムのことですね。具体的にこういった取り組みがあるのかお伺いしていきたいんですが。

後藤 「住まい」というのは、この地域は持ち家がたぶん多いと思いますので、これまで生まれ育った住宅で、そこでいろいろなサービスを受けられるのが一番よろしいわけなんです、なかなか高齢者だけの、あるいは単身だけでの高齢者になると、そこでは住みづらいということになれば、有料老人ホームとかですね、あとはサービス付高齢者向け住宅というのがあるんですが、そういったものも含めての住まい、そこに住んでれば、あとは外に出掛けることでいろいろなイベントがあれば楽しい気持ちで、そういった楽しい気持ちになるというのは予防にもなります。高齢者は65歳以上という定義はありますけれども、65歳になったからと言って、すぐ皆さんが、介護が必要になるわけではありません。8割以上の方は元気高齢者と言われておりますので、高齢者は助けられる側という固定的な考えではなくて、元気な高齢者が、少し弱ってきた高齢者を助けるという側になれば、自らも元気になって予防に繋がるというのがひとつあります。そして、さらには専門性のある医療、これは在宅医療というのをご存知かと思いますが、住み慣れた住宅に病院まで診療所まで行かなくてもお医者さんの側から来てくれる看護師さんが来てくれる、あとは、これは今もあるんですけれども、いろいろ介護保険を使ったサービスとして訪問介護、訪問看護、あとは自宅から出かけて行く通所介護といったサービスが既にございます。さらにそこにボランティアの方も加わっていただきたいんですが、いろいろな相談ごとに応じていただける方、見守っていただける方、民生委員などの方もですね、そういった見守りの中で重要な役割を今でも果たしていただいているんですが、これからはもっと元気な高齢者も含めた形で生活支援といった形ですね、皆さん方がこの地域でこぞっていろいろな職種、立場を超えて、助け合う地域、まちづくりが重要だということになってまいります。

塩竈 こういったのをイメージしたものというのが全体的に地域包括ケアシステムと呼ばれているわけですね。

後藤 そうですね。

塩竈 今このお話の中では、まだまだ元気な高齢者の皆さんのパワーというの、是非こういったところで、活用していきたいというのもありましたけれども、段々、年齢が高くなってくるとですね、介護を必要とする割合というのはどんどん高くなっていくということもあるかと思うんですよね。世の中のその形といいますか、生活のスタイルであったりとか、いろいろと変わってくると昔その介護というところに向かい合っていた社会っていう形とはまたちょっと変わってきたような感じもあるんですよね。例えば、おじいちゃんおばあちゃんと一緒にこれまでは生活していた家族形態というのがどんどん移り変わって、核家族化といいますか、一人暮らしの方が多かたり、夫婦だけの世帯が多くなってくるっていうのがありますけれども、そんな中でやっぱりこういった地域の取り組みといいますか、地域ごとの繋がりがってのは、より必要とされるんでしょうね。

後藤 そうですね。一関市、平泉町も広いですから、一関市だけでも旧市町村単位で見ますといろいろな市町村が一緒になって東西に長い圏域ですので、昔ながらの地縁的な繋がりもございますし、一つの市になっての新しい取り組みといった福祉の部分での展開はあることと思うんですけども、やはりそこに住む人々は顔なじみの方がやはり気心が知れているいろいろ頼れる部分は多いと思うんです。そういった中で高齢者世帯、65歳以上のいる世帯というのは4世帯に1つはそういった形で全国的にはなっているんですが、一番心配なのが、一人暮らしだけの高齢者、老人夫婦二人とも65歳以上だというような世帯が段々増えつつあるわけなんです。そういった場合には、家族による介護というのはなかなか難しく、よく言われます老老介護、両方介護が必要になっているような方でもお互いに助け合わないと施設、例えば特別養護老人ホームというのは、待機者といわれる方がまだまだ多いものですから、皆さん入れるわけではありません。ですから地域で、先程の包括ケアシステムといったように、自宅を含む施設の外

でもそういった安心して受けられるサービスをこぞって提供する地域を作っていくって、皆さんで助け合っていたらいいなということがあります。

塩竈 いろいろその介護というところを取り巻く考え方というのが世の中も移り変わってきたのかなというふうに思うんですけども、実際にこれを動かしていく中で、今までそういった孤立化と言いますか、世代間との孤立が多かった都市部の皆さんとか、そういった皆さんからすると、こういった地域ごとに新しい繋がりというのを作っていくというのは、なかなか期待される場所も多いかも知れませんね。

後藤 そうですね。よく言われます、隣に誰が住んでいるか分からないというのは、都会では良く聞きます。その点に比べれば地域の方が顔なじみのことという部分ではですね、今でも強い部分はあるかと思いますが、かと言って、やはり高齢化が進めば、なかなか助けようにもお互いに助けづらい部分、体力が続かない、気持ちが弱くなっているというのがありますので、そこはまた少子化というのが一方ではありますので、そういった中で専門職が一方では必要になるのは事実です。訪問看護、訪問介護、そしてお医者さん、看護師、薬剤師といった時に、いろいろな職種、多くの職種という意味で多職種と言いますので、多職種がそれぞれの専門性を持ち寄って助け合う多職種連携ということが必要になってくるということも言われております。これがないと、連携、地域包括ケアシステムというものが実際は動きませんので、そういったことの垣根を、どうしても医療は医療、介護は介護でやってきた、お互いのことを良く知らない。そこで今重要なのが、看護師さんの役割というのは両方の分野を良く知っているの一番看護師さんではないかというのがありますので、そういったところに期待されている部分もございます。

塩竈 いろいろな立場の皆さんのそういった経験であったりとか知恵っていうのが、こういうふうな形のものでこう集まってくる、そう

いったまたチャンスでもあるわけですよね

後藤 そうですね。

塩竈 なるほど。私たちの地域というのは、介護だけじゃなく、いろいろ地域地域で助け合ってきたりとか、特に震災の時などは、その隣近所の繋がりというのを本当に大事だったっていうのを、まさにこう実感して生活している地域だと思うんですよね。そんな中で、そういった介護の分野でのそういった知恵の出し合いであったりとか、地域の見守りというのが、本当に大事になってくる。そういった意味での地域包括ケアシステムの仕組みというのを皆さんにまた改めてしっかり考えていただければと思います。また、岩手県ではこういった地域包括ケアシステムを進めていくためには、こういった取り組みというのをこれからしていくんでしょうか。

後藤 これからいろいろな国から権限が都道府県、そして市町村に下りてくるような今時代になっております。そういった時に、この地元の一関市さん、平泉町さん、そして先ほど介護保険の計画を作っているのは、その両者の職員が集まった広域事務組合ということをお話しましたが、やはりいろいろな仕事を抱えている市町村の中であって人手が足りないということはますます出てくる心配がございます。加えて、医療という分野、こちらがポイントになります。それに関わるお医者さん、そしてそれを組織立てている医師会というのがあるんですが、やはり医師会の協力がないと医療と介護の連携は進みづらい部分がございますので、これまで市町村という組織はですね、医療についてはあまり関わりが強くなかったと、どちらかというと保健所を抱えている県の側が、医療計画も作りいろいろな機能の役割分担もその計画の中で県が考えてきた部分があります。そこで医師会との繋がりを持っている県が広域的な調整をする場面もいろいろ出てきますし、いろいろな訪問診療、訪問看護そういったことをする方々をいろいろな場面で顔の見える関係づくりとかいった形でですね、県がお手伝いできる部分も多数あると思いますので、そういったことに関わり合

いながら市町村と助け合いながら、平成 37 年に向けた地域包括ケアシステムの構築に何かお手伝いができることがあれば、何でもやっていきたいということで考えております。

塩竈 いろいろなそういったラジオの皆さんを繋いでいく、まさにコーディネート的な役割を県南広域振興局の皆さんもされているんだなと思います。何よりも地域に住んでいる私たち、これから介護を受けるかも知れない、それから介護をする側にまわるかも知れない、それぞれの皆さんがしっかりとこういった仕組みっていうのを理解するのが、とても大事なんだなって今日は感じました。今日の「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」今日は地域包括ケアシステムの構築に向けてというテーマで、県南広域振興局保健福祉環境部の後藤啓之長寿社会課長にお越しいただきました。後藤さん今日はどうもありがとうございました。

後藤 こちらこそ、大変ありがとうございました。

塩竈 さあ地域医療体制の充実のため、私たちも積極的に関わっていくようにしましょう。「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」このコーナーは、一関市健康づくり課の提供でお送りしました。